

国語科学習指導案

日 時 平成22年11月24日(水) 第6校時
 対 象 第二学年C組 44名
 授 業 者 東京都立千早高等学校・教諭・酒井清香
 場 所 三階二C教室

- 1 単元(題材)名 和歌から物語を作る
- 2 単元(題材)の目標

①和歌の魅力や特質を理解しようとしている。(関心・意欲・態度)
 ②和歌の前後の物語を創作し表現することにより、想像力を伸ばし心情を豊かにする。(読む能力)
 ③和歌の解釈に必要な語彙・文法・修辞等を理解する。(知識・理解)

3 単元の評価規準

観点	ア 関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 知識・理解
単元の評価規準	和歌に関心を持ち、積極的に人物の心情や情景を読み取ろうとしている。	語句を正確にとらえた上で、自分なりの解釈を加え、その魅力を表現している。	基本的な語句および文法・修辞等を理解している。
学習活動に即した具体的な評価規準	<p>◆行動の観察</p> <p>①第二時発表 グループで協力しながら、和歌の優れた点や、歌の読まれた背景など、他の生徒が理解できるよう工夫して発表している。</p> <p>②第四五時グループワーク 自らの考えを伝え、グループの他の感じ方に触れ、物語をより良いものにしようと努めている。</p> <p>◆記述の点検</p> <p>③第六時自己評価表 他のグループ発表のどこが優れていたかを具体的に記し、自己の発表を振り返ることで、単元の学習内容を自分なりに深めている。</p>	<p>◆記述の確認</p> <p>①第一時ワークシート 和歌の解釈に必要な語句・文法・修辞等を調べ、ワークシートに記している。</p> <p>②第三時ワークシート グループで選んだ歌の魅力について自分なりに解釈し、前後の物語を創作する準備として、登場人物や構成を考えることで、和歌の世界に親しんでいる。</p> <p>◆行動の観察</p> <p>③第六時グループの発表 グループで考えた和歌の魅力を劇という発表形式を通し伝えている。</p>	<p>◆記述の確認</p> <p>①第一時ワークシート 和歌の解釈に必要な語句・文法・修辞等を調べ、ワークシートに記している。</p>

4 指導観

(1) 単元(題材)観

古文の授業では、生徒に身に付けて欲しい語彙や文法・古典常識が多くあり、指導者にとって、教えたことばかりであり、その中で言語活動を有機的に取り入れることは難しい。しかし新学習指導要領においても、生徒の国語力を高めるために充実した言語活動を展開することが求められており、授業者が教材研究し生徒に教

授する大きな幹とも言える従来の一斉指導に加え、生徒の活動に留意した、新たな工夫を加えた授業を行う必要がある。

新学習指導要領には、国語総合の(2)言語活動例として、「ア 文章を読んで脚本にしたり、古典を現代の物語に書き換えたりすること。」が挙げられている。新学習指導要領解説には、「脚本にするという言語活動の前提として、戯曲に触れている必要がある。」とも記されているが、附属高校の生徒たちは、一年で現代劇鑑賞・二年で歌舞伎鑑賞を全員が行っていることと、辛夷祭(文化祭)の中心である三年演劇を観てひたかたならぬ影響を受けている。劇を演じること作ることににおいては、他校の生徒に比べ圧倒的に高い意識を持っている。

以上の点をふまえ、和歌の前後の物語を作り発表するという言語活動を通して、生徒が想像力を伸ばし、豊かな感性や情緒を育むことを目的として、本単元を設定した。歌が詠まれたその場所やその時だけでなく、その前後の物語を想像することで、現代にも共通するものの見方や、古文特有の感じ方・考え方にも思いをめぐらせられるのではないかと考えこの単元を設けた。この単元における一連の言語活動が、新学習指導要領古典Bの「古典を読んで、人間、社会、自然などに対する思想や感情を的確にとらえ、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること」という指導事項とも関連し、生徒の豊かな感性を育むことに資すると考えている。

(2) 生徒観

附属高校の中でも授業に対する取り組みが素晴らしいと評判が高く、何事に対しても真摯な態度で臨むクラスである。加えて、生徒たち自身もクラスが良いという自負をもっており、授業だけでなく行事などでも良い結果を残している。

第二時の発表においても、各グループが個性を持った発表をし、授業者の想定を超える素晴らしい発表が多かった。

しかし第三時に行った物語の構成を考える作業では、多くの生徒が難渋し、なかなか作業が進まなかった。歌の解釈を大切にする真面目さからか想像力を働かせることが難しく、自由に物語を創作することに苦手意識を持つ生徒が多いことがわかった。

本単元で、和歌を的確に理解することだけでなく、そこから発想を広げることも大切であることを感じさせたい。

(3) 教材観

教材は、東京書籍『古典』(古文編)に採録されている「王朝秀歌」とした。代表的歌人の歌が採録され、多様な修辞を駆使した王朝時代の優れた歌の世界から、豊かな言語表現に触れることができる教材である。その十五首を出席番号順に三人で調べ発表する活動と、その後、五、六人のグループに分かれ、十五首の中から好きな歌を選び、その物語を創作するようにした。

なお、第一時は、学校図書館との連携および、ノートパソコンを使用し、語句の意味や文法、歌の背景などを調べた。

5 年間指導計画における位置付け

年間指導は、説話・歴史物語・日記・和歌・物語を扱い、様々なジャンルを用い、古文のものの見方・感じ方・考え方に親しめるよう計画している。(授業中、扱うことができなかった随筆については夏休みの課題とした)和歌に関しては、一学期に『宇治拾遺物語』一能は歌詠みーを扱い、和歌を詠ずることは、当時の人々にとって重要だったことを学習済みである。またこの後扱う『伊勢物語』では、本単元で和歌から物語を作ることにより、歌物語に対する関心が高まるよう期待している。また三学期に扱う『源氏物語』も和歌が物語に挿入されていることから、物語の構成や意味に和歌が重要な役割を果たしていることを学ぶ予定である。和歌に

親しむことで、我が国の伝統と文化を尊重する態度を身につけさせたい。

6 単元の指導計画と評価計画（六時間扱い）

授業同士のつながり

第一時で文献やインターネットを使用し、語句の意味や文法、歌の背景などを調べた。本単元の主たる目的は、和歌から物語を作ることだが、歌の意味を自由に解釈して創作を行うのではなく、語句や文法、歌の詠まれた背景や当時の状況や場面を理解した上で行わなければ、古典の授業で扱う意味がないために、この活動を取り入れた。またクラスの仲間の前で発表することから、いい加減な調べ学習ではなく、周辺知識等まで徹底的に調べることを期待してこの活動を取り入れた。また第三時で一人一人が物語の構成を考えることで、第四時に積極的活動に参加することを狙いとし、また第四時で、お互いの構成を知る事でより豊かな発想ができるのではないかと考えている。第六時の発表では、グループで考えた物語を劇として発表することで、より和歌の魅力を味わうことを期待している。

単元同士のつながり

前単元「日記に親しむ」では、「更級日記」を読み、短い文で日記を書くという学習活動を行った。これは、古典の文法や語彙を的確に理解するということに重点を置きつつ、古典に親しむ態度を育てることも必要であることに留意した活動である。そのため、本単元においても、和歌を逐語訳から意識し、さらにその和歌の前後の出来事を想像し、生徒が古典の世界に親しめるよう工夫した。また年間指導計画における位置付けに記したように、この後指導する『伊勢物語』および『源氏物語』にも本単元で学んだことを生かす予定である。

	学習活動・学習内容	学習活動に即した具体的な評価規準
第一時	三人のグループに分かれ、教科書「王朝秀歌」の語句の意味・訳・修辞等を調べ、ワークシートに記す。	ウー①
第二時	前時に調べたことや訳を全体に発表する。	アー①
第三時	全体の発表から、五・六人グループで和歌を選び、前後の物語の構成を考える。	イー②
第四時 第五時	グループで構成を持ち寄り、意見を出しながら和歌の魅力が伝わる物語（脚本）を作成する。	アー②
第六時【本時】	①グループで発表する。②発表を評価する。③自己評価し、学習を振り返る。	アー③ イー③

7 指導に当たって

- ①歌の語彙・文法・修辞・背景などを調べ発表することにより、和歌の内容を的確にとらえる。
- ②和歌の前後の物語を作成することにより想像力を伸ばす。

8 本時（全六時間中の第六時間目）

(1) 本時のねらい

和歌の魅力を伝えるために、歌の詠まれた前後の物語を創作し発表し合うことにより、古文特有のあるいは現代にも共通するものの見方・感じ方・考え方をとらえ、想像力を豊かにする。

(2) 本時の展開

王朝秀歌 〳和歌から物語を作る〵

クラス	
番号	
氏名	

グループで選んだ歌

大意

この歌の魅力

一文で物語を表現すると……

登場人物およびその設定（性格・身分・立場など簡単に）

構成

- ・伝えたいことをどう伝えるか工夫する
- ・話の順番、展開を考える
- ・箇条書きでよい

王朝秀歌と和歌から物語を作る

クラス	
番号	
氏名	

評価の観点
①和歌の魅力が伝わる表現になっていたか
②想像力豊かに前後の物語を作成し発表できたか

評価
◎ 該当する ○ やや該当する △ 努力を要する

「わくらは」 富永太田猪 藤立石	①	②	1
「もの思へ」 澤木内宮川唐 銅	①	②	2
「橘の」 金子所司有地 森田東野岡郡	①	②	3
「わくらは」 梅垣大實佐々 木井上	①	②	4
「もの思へ」 野口高橋坂本 深堀中野電澤	①	②	5
「思ひあま」 大代西川清水 中島増山鈴木	①	②	6
「色見えて」 野村小松塚田 高松山野	①	②	7
「色見えて」 平野由利熊基 御堂長谷川松	①	②	8

各班の発表後に記入

すべての発表が終わったら記入

総合評価

発表の優れた点

--

自己評価

・グループ活動に積極的に取り組んだか。()
・歌の魅力を考え、伝えようとしたか。()
・想像力を働かせ、前後の物語を考えたか。()

自己評価自由記述

・発表までの自己の役割は何か。
・学習活動の中で困難や戸惑いを感じた点。(あれば記す)
・学習活動を振り返り考えた事、感じたこととは何か。

--